

令和3年度「集落自主活動に係る伴走支援事業」実施報告書

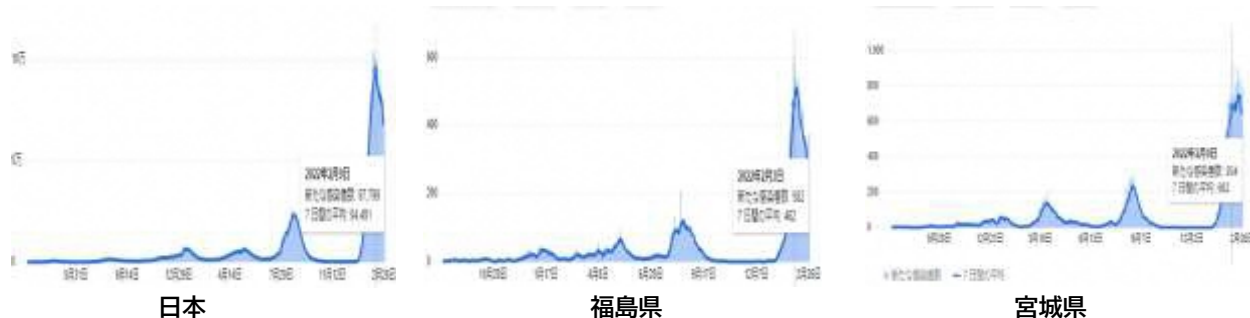
東北文化学園大学 エコ・カフェ碓川

○実施者：斎藤麗央、平間春弥、佐々木貴史、笹谷叶、鶴田敦士、青木那緒人、遠藤拓実、佐藤央弥、橘右京、寺内勇太、寺尾俊輝、清野知飛路、曾根祐聖、平塚航太 ○支援者：伊藤真央、久保なつみ、斎藤真優、高橋湧翔、渡邊翔弥

I. 今年度（令和3年度）の活動制約条件について

年度当初、コロナ禍により募集開始時期は大幅に遅れ、現地（針道九区）での活動も不相当と考えられた。このため、現地関係者と電話や ZOOM 等による意思疎通を図り、コロナ対策に万全を尽くした上で次年度以降の活動を念頭に置いて（実施可能な）大学周辺・仙台市内および宮城県内での活動を進めることとした。

COVID-19 感染者数の推移(変動)



II. 昨年度（令和2年度）までの経緯について

これまでの活動から針道九区の自然環境と人的資源の豊かさを確認しえたが¹、薪炭や建材を供給したかつての里山は荒廃し、蚕に給餌した桑園も遊休化するなど両者の関係は齟齬しているように思われた。例えば、「諏訪神社」の祭祀として継承される「あばれ山車」を担う「若連」の現役・OB は同時に集落維持の重要な担い手でもあるが、人口流出や農業衰退による直接的な影響を被っている。すなわち、年中行事は田植え後の「早苗饗」のように農作業の周期に適合するものであるが、集落外の企業で働く現在の住民は通常の勤務を行いながら集落の多様な役割を分担し、余暇を削り、勤務時間を調整して年中行事を遂行するという厳しい現実と直面せざるを得ない。比較的平穏だった平成 31(2018)年度、台風 19 号に直撃された平成 31/令和元(2019)年度、新型コロナウイルスに翻弄された令和 2(2020)年度の経験から、私達は自然資源の保全的利用にまで手が回らない山村集落の現状の厳しさを認識させていただいた。

III. 今年度（令和3年度）の活動について

「関係人口²」として針道九区にかかわり、COVID-19 感染拡大(4~6 波)をふまえ、オンライン会議ツールを利用しながら「時間」資源の制約条件下で、自然(生態系)資源と人的資源とを保全的かつ調和的に利用するための最適解を求める計画(案)づくりを今年度(令和3年度)の活動目標として設定した。当該目標に基づき、「チキントラクター」や「羊牧場」など追加的の労力負担が比較的大きいと考えられる構想は当該目標に適合的ではないために取り下げ、粗放的(省力的)で余暇充足的と考えられる①(ニホンミツバチ)蜜源・花粉源となる植物による遊休地の活用を代替案として提起した。また、「食」の観点から、②地元食材を活用できる新メニュー「ABA 冷麺」(仮称)づくりなどに挑戦すると共に、集落行事(伝統的祭祀・年中行事)の自粛(による集落機能の低下)を防ぐ感染症対策の視点から、③集落の象徴的行事である「あばれ山車」に関する検討を行った。なお、以上の活動への取り組みにあたり、④参加者の健康と意欲を保持しつつ組織本体(エコ・カフェ碓川)の維持・運営における危険分散(リスク回避)を図るために、「集落自主活動に係る伴走支援事業」に支援者 5 名を加え、特定の個人への過剰な負担集中を回避しうるように配慮した。

¹ 碓川信弘 (2020) 「起業家精神と大学生事業 — 針道集落における事例的研究から — 」, 『総合政策論集』 Vol.19, No.1, 東北文化学園大学, pp.175-208.

² 碓川信弘 (2021) 「関係人口の内部化による地域振興 — 「針道九区」の調査を起点とする試論 — 」, 『総合政策論集』 Vol.20, No.1, 東北文化学園大学, pp.67-96.

IV. 今年度（令和3年度）の活動内容について

上記の考え方にに基づき、大学周辺の里山を踏査するとともに、仙台市内および宮城県内での農業体験・養蜂研修に参加した。大学裏の里山では、近所の方がサンショウの実を採集していました。サンショウは蜜源植物です。身近な場所で育つ野生的なサンショウに驚き、不法投棄を警告する看板が立てられる現実を残念に思った。里山には美しい自然と不法投棄や廃屋等が混在している。顧みられることのない地域資源の利用を考えることは地域づくりの重要な課題ではないかと考えた。



大学周辺の森林の状況を調査するために散策することにした。



5/27(木) 里山踏査①(散策型調査)の予行演習(橘、寺内) 蜜源植物の「山椒」発見



6/8(火) 里山踏査②(斎藤、佐々木、笹谷、鶴田、平間) 7/28(土)~29(日) 予定の「夏無沼自然公園キャンプ場」調査は中止



8/6(金) 亘理町「自然環境と養蜂を学ぼう」に参加。8/28(土)~29(日) 予定の針道訪問もコロナ感染拡大のために中止



9/14(火)~15(水) 仙台市六郷で農業ボランティア活動(高橋、渡邊)。9/16(木) 仙台市中央卸売市場見学(高橋、渡邊)。



10/3(日) 仙台市燕沢で農業ボランティア活動(伊藤、大久保、斎藤)

10/5(火) ZOOMでの打ち合わせ(斎藤、佐々木、笹谷、鶴田、平間)。10/14(木) 同前(青木、遠藤、佐藤、橘、寺内、寺尾)。

養蜂研修・農業ボランティア活動報告・学会・フォーラムなど

9/8(水) 藤原養蜂場(盛岡市 寺尾)の体験型研修を嚆矢とし、以下の諸活動に取り組む。



10/12(火) 亘理町「養蜂研修会」(齋藤 佐々木、笹谷、平間)。9/30(木)、10/7(木) 宮城の食文化、世界農業遺産(GIAHS)「大崎耕土」に学ぶ。
10/19(火)、10/21(木)、10/26(火)、10/28(木)、11/9(火)、11/11(木)「里山」画像の制作。



11/18(木) 亘理町 現場で学ぶ「養蜂研修会」(講師:齋藤高晴 榊 communa 代表(日本在来種蜜蜂の会))(寺内、寺尾)



報告会・学会 など

農業ボランティア 11/25(木) 個別報告(渡邊)、12/2(木) 同前(伊藤、齋藤)、12/9(木) 同前(久保、高橋)、1/20(木)「全体報告会」

12月5日 9:00-10:00, 13:00-14:00		
発表者	所属	タイトル
萩川 信弘	東北文化学園大学	「みどりの食料システム戦略」への期待と不安:「針道九区」と「復興遺産」を視座として

山里の復興計画
一 二本松市針道九区 元気の源泉
年中行事がコロナで中断。
そして次の一手

萩川 信弘
(経営法学部 教授/経済学専攻)
農林水産省農業研究センター、国際農林水産研究センター及び農林省農林政策局 国際農林政策室に勤務後、2020年から本学で専攻領域分野の教育・研究に専念している。

12/5(日) 日本有機農業学会大会、東北文化学園大学フォーラム「コロナ禍後の新たな社会」

令和3年度「エコカフェ萩川」通信 (2021年12月16日発行)

2021年12月の針道九区を振り返ります。以下の活動に参加しました。

1. 【課題①】 養蜂計画
【課題②】 復興の未来

【課題③】 里山と花畑に学ぶ
蜂蜜をつくる蜜蜂を飼育して学ぶ
「あひま菜」に学ぶ「道産の食」
「あひま菜」の栽培と活用について
学ぶ会を開催。【課題④】

2. 養蜂と蜜酒-花の酒の調査
(1) 養蜂と蜜酒 東北学院大学、仙台造り、Wahala の調査を実施。
養蜂と蜜酒は40年以上の歴史を持つ。養蜂の歴史から蜂蜜の活用や蜜酒の醸造の歴史について学ぶ。
東北学院大学は養蜂と蜜酒の歴史を学ぶための学内やキャンパスで養蜂と蜜酒の活用、蜜酒の醸造を推進している。
Wahalaは蜂蜜の活用、蜜酒の醸造に特化した、針道九区が養蜂と蜜酒の活用を学ぶための学内である。

3. 「復興遺産」の活用と復興計画
復興遺産の活用と復興計画について学ぶ。
復興遺産の活用と復興計画について学ぶ。
復興遺産の活用と復興計画について学ぶ。

4. 「針道九区」の復興計画
針道九区の復興計画について学ぶ。
針道九区の復興計画について学ぶ。
針道九区の復興計画について学ぶ。

5. 「復興遺産」の活用と復興計画
復興遺産の活用と復興計画について学ぶ。
復興遺産の活用と復興計画について学ぶ。
復興遺産の活用と復興計画について学ぶ。

6. 「復興遺産」の活用と復興計画
復興遺産の活用と復興計画について学ぶ。
復興遺産の活用と復興計画について学ぶ。
復興遺産の活用と復興計画について学ぶ。

12/16(木)「エコカフェ萩川通信」発行



1/6(木)「針道 ABA 冷麺」の試作 (青木、遠藤、佐藤、橘、寺内、寺尾)

1/13(木) 令和3年度活動総括、1/31(月) 令和4年度活動計画の検討、2/1(火) 令和4年度活動計画に関する現地(針道九区)との意見交換。
2/27(日) 令和3年度大学生事業報告会(オンライン): 活動報告(寺内)および意見交換会(青木、遠藤、佐藤、橘、寺内、寺尾)

V. 今年度（令和3年度）の反省と次年度（令和4年度）の計画について

1. 「ニホンミツバチ」の生息環境整備 ☞ お花畑づくりプロジェクト

巨理町、藤原養蜂場(盛岡市)の研修や藤原先生(宮城学院女子大学)の助言を活かし、蜜源・花粉源植物調査および耕作放棄地等を利用した花畑(ソバ等を含む)づくりに取り組み、ニホンミツバチの生息環境を整備する。まず、在来種の日本蜜蜂に着目した。送粉者^{ポリネーター}として受粉を助け、オオスズメバチを集団で撃退する日本蜜蜂が自生できる環境づくりを集落機能回復の契機にするために、針道九区の花畑づくりに取り組もうと考えている。



【出典】立木写真館『いろどり おばあちゃんたちの葉っぱビジネス』第2版

2. 「針道冷麺」の試作と試食 ☞ ABA冷麺づくりプロジェクト

針道産の食材を使った「冷麺」をつくり、「暑気払い」等で試食してもらい共食文化を掲げた冷麺づくりに取り組みたい。盛岡冷麺をベースに地元食材を用いる冷麺を「ABA冷麺」と名付けた。本場の盛岡冷麺は、適切な茹時間を確保した後に麺を冷水で締めてもちりとした食感にする技があり、その技によって独特の風味を出す。試食会を通して冷麺づくりのワザを体験した私達が、農業技術という技に精通した方々と協力することで、針道九区ならではの「ABA冷麺」が作り出せると考えている。



3. 新型「暑気払い」による世代間交流と集落史の伝承 ☞ 遊んで学ぶこどもプロジェクト

今井公園で開催されてきた「暑気払い」を子供達も参加できる「遊びの場」に変え、世代を越えた住民の交流機会を提供し、(子供達の興味が湧くような) 集落史(古代~現代)を「若連」JOB達に話して聞かせてもらう。

アプリを利用した環境教育「ミツゲン GO!」。蜜源となる花々を見つけるゲームを提供したいと考えている。スマホで植物を撮るだけで植物の名前がわかる「Picture This」のようなアプリを利用し、子供向けのゲームを考案したい。子供達が集落の植物やそこに集まる虫を知ることによって地元の自然に関心を抱き、それを見守る大人達も身近な植物や自然環境の保全に楽しく取り組めるのではないだろうか。



4. 「あばれ山車」の持続可能性を高める山車小屋の設計 ④ 集落機能向上プロジェクト

「あばれ山車」は針道九区の団結力を維持する絆の一つですが、山車に載せる人形を制作する場所は密閉空間で感染防止の観点から望ましいとはいえません。そのため、換気ができる施設の整備が急がれます。また、その施設は祭りの準備だけでなく、山車の収納や展示にも利用でき、直売所や集荷場にも使える多目的施設として集落機能の回復への貢献が期待されます。



現状:制作現場(2021年) 参考:ねぶたラッセランド <https://rubese.net/gurucomi001/?id=1048> 「マルシェ針道」(2019年)

5. 「東和ロードレース」への参加 ④ めざせ完走プロジェクト

本学が立地する「国見」の地形を活用し、「完走」を目指して練習に取り組む。起伏の豊かな針道と国見の共通性を活用した健康づくりを目指し、私達は東和ロードレースへの挑戦を決意した。次年度は「登坂走行」を中心に練習に取り組み、上り坂の走法を身につける。「体を前方斜め下に崩し続ける」ことを意識し、速く走ることを目的にする「足裏全体で踏みこむ」平地走行との違いを実感しながら、Long Slow Distance や Fast Walking 等を組み合わせ 2.5km で 110m 上の難コースを克服したいと考えている。



【参考】平成 30(2018)年度実施のアンケート調査結果から

1. 若者(☞「子供」を含む)が住みたいと感じる地域づくり。若者が楽しめるイベントの開催。自然を生かした取り組み。
2. 集落全体で取り組める交流の場づくり。年中行事の復活。若連だけでなく家族も集まれる行事。
3. 野菜を売れる「場」づくり。獣害および遊休農地の対策。耕作放棄地を活用した新作物の導入。
4. 豊富な水資源の利用。☞(例)ワサビやクレソンの試作。
5. 気候風土に合う作物の特産化。蕎麦や小麦の活用(そば・うどん打ち教室)。
6. 農業法人の誘致、高齢農家のもつ知識や技術の活用、遊休農地の活用。